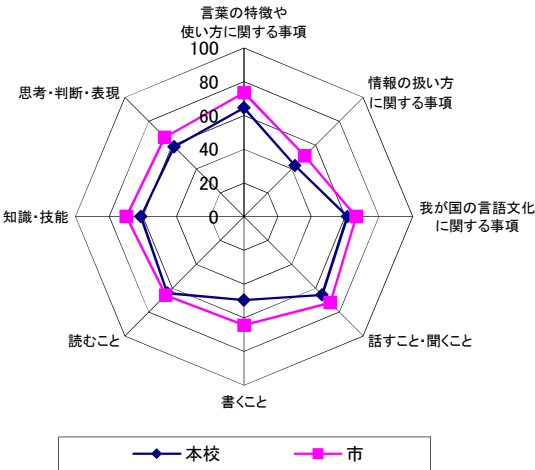


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.5	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	42.7	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	61.3	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	65.6	72.3	73.7
	書くこと	49.5	64.3	66.6
	読むこと	64.2	65.8	64.9
観点別	知識・技能	61.2	69.8	70.8
	思考・判断・表現	58.6	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

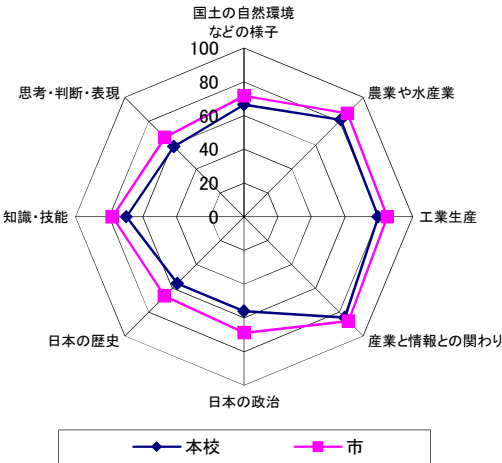
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて9ポイント下回った。 ○6学年、5学年に配当されている漢字は正しく読めている。 ○文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使えている。 ●三字の熟語の成り立ちについては、市の平均より17ポイント低かった。 ●文と文との接続の関係の理解は市の平均を19ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読みについては、現在の指導を継続し、読み書きのさらなる定着を図るため定期的な漢字の小テストを行う。 ・熟語の成り立ちについては、漢語、和語を正しく理解させることにより、熟語の成り立ちを考えられるように指導する。 ・接続語が正しく理解できるように指導するとともに、文と文をつないだり二文に分けたりする練習を継続して行う。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は8.3ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題は、市の平均から11ポイント低く大きく下回った。 ●二つの情報を見比べ、簡単に文章に整理することに課題が見られる	・国語の授業だけでなく、他の教科においても表やグラフなどの資料から必要な情報を読み取る活動を進んで行う。また、読み取るだけでなく、必要な情報を取捨選択しながら、簡単に文章にまとめる活動を繰り返す行う。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、5.3ポイント下回った。 ●熟語の成り立ちについての問題では、市の平均より5.2ポイント低く、下回ったことから和語、漢語の理解について課題が見られる。	・児童自身が語句の由来などを調べる学習を通して、語句に興味をもつようにする。 ・身の回りにある熟語を漢語、和語に分類する活動を通して由来や成り立ちについて理解できるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて6.7ポイント下回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容の中心を捉えることができていない。 ●聞きたいことの意図に応じて、質問を工夫することに課題が見られる。	・授業中の話し合い活動の機会を意図的に増やすことで、話し合いに積極的に参加する意欲の向上を図る。 ・話し合い活動に必然性をもたせることで、目的意識をもって話し合いに参加し、聞くポイントを明確にできるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて14.8ポイントと大きく下回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。 ●予想される反論とそれに対応する意見を書く問題では、市の平均を23ポイント下回った。	・文章を書くことに対する抵抗感を無くすために、自分の考えや振り返りをノートに書くことを日常的に経験させる。 ・他教科の学習の中でも伝えたいと思える、必然性のある言語表現の場を設定する。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.6ポイント下回った。 ○物語文における登場人物の心情や人物像を捉えることはできていない。 ●説明文の文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題に課題が見られる。	・説明文の構成については、授業で扱う際、接続語の働きを意識しながら、文章全体の構成を捉えられるように指導する。 ・事実と筆者の考えを分けて考えさせることで、要旨の読み取り方について確認しながら読解を進めていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.5	71.6	69.6
	農業や水産業	81.2	86.7	83.7
	工業生産	79.6	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	84.7	87.7	77.4
	日本の政治	56.0	68.9	71.7
	日本の歴史	56.0	66.7	66.3
観点別	知識・技能	69.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	58.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

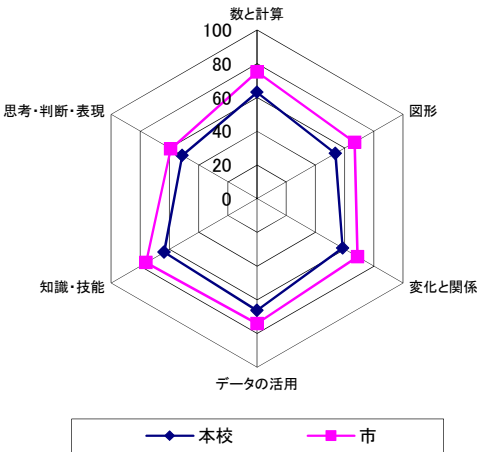
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べ5. 1ポイント下回っている。 ●日本と他国の位置関係の問題については、市の平均を6.9ポイント下回っていて、地理的知識の理解に課題が見られた。 ●日本国内の面積が大きい湖についての問題では、市の平均を7.9ポイント下回っていて、日本の主な地形の知識の理解に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理的な学習の時だけでなく、様々な学習の機会に地図を開いて確認し興味を高めながら地理的な感覚を養う。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べ5. 5ポイント下回っている。 ●米の生産の工程についての問題では、市の平均を15. 5ポイントと大きく下回っていて、1年通しての米づくりの工程の理解について課題が見られた。	・5年の「米づくりのさかんな地域」の米の生産の工程について復習し、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えることで見方・考え方を育成する。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べ5. 4ポイント下回っている。 ○工業製品の分類についての問題では、市の平均を3ポイント上回った。1人1台端末など身近な機械製品を例に挙げて分類をした成果であると考えられる。 ●日本の工業の特色についての問題では、市の平均を18. 6ポイントと大きく下回っている。二つの資料から読み取った内容を記述することに課題が見られた。	・他教科に渡り、資料の読み取りだけでなく、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を増やす。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と比べ3. 8ポイント下回っている。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を3. 3ポイント下回っている。インターネットを使用することの注意点についての理解に課題が見られた。	・家庭でもインターネットを安全に楽しく使うためのルールやマナーについて、親子で話し合う場を設けるように呼び掛ける。 ・学級活動において、インターネット上での情報の発信や受信に関する注意点を正しく理解するために、事例を基に話し合うことでインターネットの正しい使い方の理解を深める。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べ12. 9ポイント下回っている。 ●天皇の地位や権限に関する問題では、市の平均を17. 8ポイントと大きく下回っていて、天皇の権限についての知識の理解に課題が見られた。 ●内閣の働きについての問題では、市の平均を26. 3ポイントと大きく下回っていて、三権分立の知識の理解に課題が見られた。	・日本における天皇の地位や権限について自分達の生活にどのように結び付いているのか、単元で学習した内容を再確認し理解を深める。 ・三権分立の仕組みについて確実に理解するために、確認しながら図に描くなどして理解を深める。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べ10. 7ポイントと大きく下回っている。 ●壇ノ浦の戦いについての問題では、市の平均を18. 6ポイントと大きく下回っていて、当時の地理に関する理解に課題が見られた。 ●鉄砲の伝来についての問題では、市の平均を34. 5ポイントと大きく下回っている。キリスト教と同時期に伝わった物の知識の理解に課題が見られた。	・歴史的事象がどこで起きたのか、日本地図を活用し、現在の日本のどの位置か印を付けるなどして理解を深める。 ・時代背景や歴史的事象が起こった要因について、年表に表し同時期に起こった出来事などを整理することで理解を深める。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.1	75.1	75.8
	図形	53.7	66.8	68.3
	変化と関係	58.6	68.8	65.0
	データの活用	66.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	63.6	76.1	75.8
	思考・判断・表現	51.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

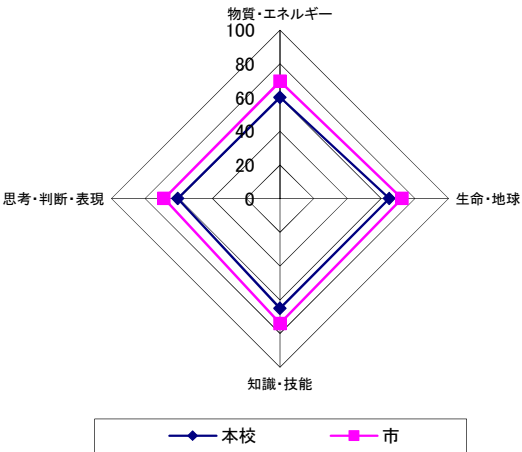
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて12ポイントと大きく下回っている。 ○図を見て、小数倍の文章問題では、市の平均を1.3ポイント上回った。 ●分数の計算では、真分数＋真分数で、分母同士をかける通分をする計算に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の加減乗除のそれぞれの計算で、答えを導き出す過程で必要な通分や約分が正確にできるように類似問題等で復習を行う。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて13.1ポイントと、大きく下回っている。 ●正多角形・合同・立体では、三角柱の展開図から、見取図の辺の長さを読み取ることに課題が見られた。	・具体物を用いて立体のつくりを確かめたり、見取り図や展開図を書いたり、児童の習熟度に応じて学習を進めるようにする。 ・三角定規やコンパス等の作図道具を、問題に合わせて使い分けたり、平行や長さ、角度を調べる際に使ったりできるように、問題練習を重ねて定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて10.2ポイント下回っている。 ●単位量当たりの大きさの問題では、表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるか求める問題で課題が見られる。 ●速さでは、速さと道のりから時間を求める問題に課題が見られる。	・割合の意味について、図などを用いて理解を促し、正確に導き出せるように、類似問題等で繰り返し練習し、論理的に立式できるようにする。 ・時間と速さ、距離の関係について整理し、問題の場面からそれぞれを求めることができるようにする。 ・単位の意味を理解させ、問題に合わせた換算ができるように指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて7.7ポイント下回っている。 ○データの見方では、度数分布表の理解で市の平均を1.2ポイント上回った。 ●データの見方では、最頻値の理解に課題が見られた。	・最頻値や中央値を正確に導き出せるよう、言葉の意味を確認したりドットプロットの見方を整理したりする。 ・様々な場面を想定した問題練習を重ねることで、平均値が正確に求められるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.1	69.5	65.2
	生命・地球	64.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	65.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	60.7	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて9.4ポイントと大きく下回っている。 ○鉄やアルミニウムなどの金属がうすい塩酸に溶けることを理解する問題では、市の平均を3.7ポイント上回っている。実験の結果を考察する活動を確実に行った成果であると考えられる。 ●ふりがが10往復する時間から周期を求める問題では市の平均を22.7ポイントと大きく下回っている。合計の時間から平均の時間を求める計算の仕方に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・算数の学習と関連付けて平均の値を正しく求める問題に繰り返し取り組みさせる。 ・実験の目的を明らかにし、児童自身が計画や予想を立て、結果から考察したり、自分の言葉でまとめたりすることができるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて7.5ポイント下回っている。 ○山の雨量と下流の川の水位の関係を、グラフから読み取り指摘する問題では、市の平均を3.9ポイント上回っている。ICTを使って画像や動画を確認した成果だと考えられる。 ●肝臓の働きについて理解する問題では、市の平均を21.8ポイントと大きく下回っている。臓器個々の働きについての理解から、それらを統合した体全体への理解を高めることに課題が見られた。	・デジタル教科書などのICTを利用し、様々な資料を使って理解の定着を図る。 ・ヒトや動物の体の学習では、臓器個々の働きを理解させるとともに、各臓器同士の繋がりを通じ、ヒトの体についての多様性や、部分と全体の働きについての理解に繋げていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、授業の中で「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図りながら、(はつきり！じっくり！すっきり！)における指導を行っている。	・1・2年生の「授業で習ったことを、分かりやすくノートにまとめている。」の肯定割合は、1年生は88.7%で2年生は74.6%である。また、「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」の肯定割合は、1年生は83.0%で2年生は81.7%である。 ・3～6年生の「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は、平均して約86%である。「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合は、平均して約90%である。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い直し、目的に応じた1人1台端末の活用など、児童が様々な方法を選択し、組み合わせながら、粘り強く主体的に課題解決に取り組むことができるような授業改善を行っている。	・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」の肯定割合は、平均して約80%である。「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」の肯定割合は、平均約88%である。 ・3～6年生の「授業を集中して受けている。」の肯定割合は、平均して約89%である。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、平均して約79%である。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・特別活動の授業研究の充実を通して、安心して自分の考えを表出し、対話的に学べる学習集団づくりを行っている。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合は、平均して約83%である。「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」の肯定割合は、平均して約66%である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査の結果は、4教科において、市の平均を下回っている。領域・観点別で見た時に、10ポイント以上下回っている教科もある。昨年度の結果から、本年度は、基礎基本の定着に向け、復習用の教材を用いたりAIドリルを活用したりしてきたが、次年度も継続して行うことで定着を図りたい。「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合が約90%であることから、基礎基本の定着による成功体験の場を設定することで、さらなる学習意欲に繋がり、学ぶ意欲に結びつけていきたい。また、話し合い活動では、進んで参加している肯定割合は80%を超えているので、今後は、理由を明確にし、意見を述べることを意図した授業を展開していきたい。